

現地講習会説明会（東北地区）

開催日 2009/9/29 ~ 9/30

場所 秋田県秋田市雄和種平尾鳥 スギ人工林（ID 050200 Grade 1）

講師 森林総研 松浦・平井・志知・小野・山田）

参加者：岩手県、宮城県、山形県、福島県、秋田県

9月29日（火）

- 12:30 集合 JR 秋田駅東口
- 13:00 平成 21 年度森林吸収源インベントリー調査の概要
（秋田県森林技術センター会議室）
- 13:30 調査概要説明（ID: 050200 グレード 1）
（調査プロットの確認、倒木調査ライン、4 方位の決定）
- 14:00 現地へ移動
- 14:15 試験地倒木調査
- 15:00 土壌炭素蓄積量調査法の説明および実習
- 16:30 現地調査（1 日目）終了
- 17:00 秋田駅東口解散

9月30日（水）

- 8:30 集合 JR 秋田駅東口
- 9:00 代表土壌断面調査法の説明および実習
- 11:30 調査総括（森林技術センター会議室）
- 12:00 講習終了
- 12:30 秋田駅東口解散

記録

心配された雨も講習会当日の朝にはあがり、初日は曇り空のもと講習会が開始された。本講習会では、まずはじめに秋田県森林技術センターにおいて、本講習会の概要と H21 年度のインベントリー調査事業全体の連絡体制について平井が説明した。次に、H21 年度インベントリー事業に係わる契約および予算の経過説明と H20 年度までに全国で行われた調査結果の概要について松浦が報告した。現地調査に先立って、秋田県森林技術センター澤田氏がはじめに現地の概要を説明した後、調査地へ移動した。調査地は、秋田空港や森林技術センターにほど近く、アクセス至便な場所で、第三紀砂岩を母材とする緩やかな丘陵地にあった。入口に設置した枯死材サンプルを用いて分解度の説明を行い、分解度は同じ枯死木の中でも変化がある上に主観的な判断部分も含まれることから、1 段階の違いはそれほど大きな問題ではないことを確認した。

調査地の林分は35年生とされるスギ人工林で、林床にはウワバミソウが山菜畑のように多数分布し、ササ・シダなどもみられた。今回の調査地は平成17年度に森林資源モニタリング調査が行われている。参加者は調査地に入り各杭位置の確認をした後、倒木調査に移った。レーダー測距儀を用いて倒木調査を実施している秋田県がその方法を実演した後、続いて参加者全員で調査方法について確認した。今回の調査地では林内にシイタケ栽培の「ほた木」があった。人為的に持ち込まれたことが明らかなので、倒木調査時の対象としないこととした。

倒木調査後、参加者は1班（初心者）と2班（経験者）に分かれ、それぞれS地点とE地点で土壌炭素量蓄積量調査を行った。1班は森林総研の講師陣が調査手順に従って、デモンストレーションを行った後、参加者が引き続いて調査を行った。2班は参加者がそれぞれ行った調査手順を講師陣が確認して適宜アドバイスを加える形式で行い、S地点の調査を済ませた後、N・E地点の調査も行った。インベントリー調査も4年目に入り、参加者の多くは調査手順等を把握しており、定刻に一日目の調査を終了した。



2日目は昨日とはうってかわり、さわやかな秋晴れの天気のもと講習会が行われた。事前に準備した2ヶ所の代表土壌断面について、各班が1ヶ所ずつ断面整形と調査を行った。代表断面1（中心地点に相当する場所）を担当した1班は、松浦が断面整形のデモンストレーションを行った後、各人がそれぞれ表層から下層まで整形を行った。その後、現場での調査時間が十分にとれない事態を想定して、層位分けや各調査項目等について、

各人がそれぞれ短時間で判断するよう指示が出され、参加者が短時間での判断にとまどいながらも、今までの調査経験をもとに必要な調査を行った。層位区分や土性、構造の決定は難しいが、アドバイスを元に実際に判断したことで実力が養われたのではないかと感じた。調査時間が短いこともあり、1班は代表断面1の記載までで終了した。2班は、講師陣が適宜アドバイスを与える形で代表断面2（中心地点とは異なる斜面を想定した場所）の調査を行い、時間内に記載や試料のサンプリングを含め調査を終了した。

最後に代表断面1において、参加者全員が松浦によるブロックサンプリング実技を見学し、実地での活用について学習した。現場では調査にさける十分な時間がなく、時間との闘いになることも予想されるので、作業に慣れ調査内容を熟知しておく必要があるのはもちろんである。しかし、判断に迷って時間を浪費するのではなく、分析結果等により後から記載を変えることもあるとの認識に立って判断すること、また判断した根拠が他人に分かるものであるようにすべきであるとの指導がなされた。さらに、種名の分からない植生



をデジカメを活用して確認する方法、円筒の補修方法や洗浄法(素手で刃の部分の部分を洗って切らないように)などの補足説明もなされた。土壌は A 層と B 層との境界が比較的明瞭で黒色土に類似していたが、A 層の黒味が弱いことと、A 層の腐植が上部から下部にかけて漸減することから褐色森林土と判定した。土壌型は、現地が乾燥や過湿な環境下でないことに加え、A 層が団粒状構造を主体とすることから適潤性褐色森林土 BD 型とした。

今回の講習会は、秋田県による周到な事前準備と調査場所へのアクセスの良さもあって、短い時間ではあったが順調に講習を終えることができた。

インベントリー調査が初めての参加者もいたが、いずれの参加者も調査手順について習熟しており、経験とともに的確な構造や土性の判定が可能になるものと思われた。

今回講習会を開催するにあたり、会場の提供や周到な調査準備をしていただいた秋田県森林技術センター各位にお礼申し上げます。